

令和6年度三重労働局第14次労働災害防止計画に基づく
「機械災害防止対策」に係る災害分析結果

三重労働局

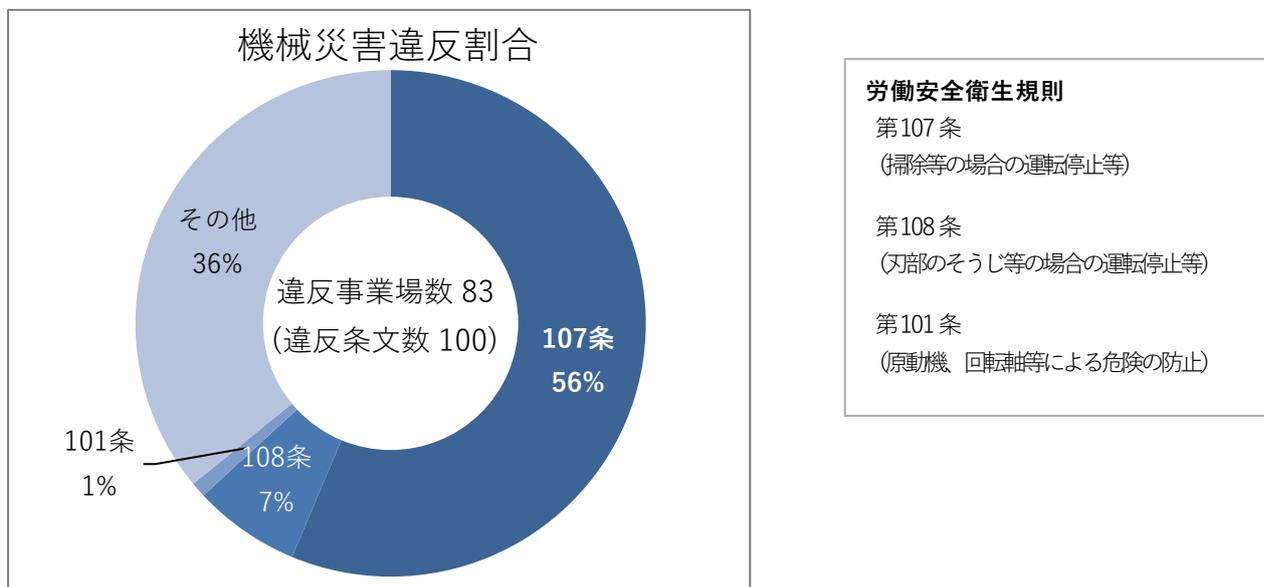
1 機械災害発生状況

令和6年に発生した三重県内の製造業における休業4日以上死傷者数は、594人であり、その内、機械災害による死傷者数は、110人で18.5%を占めており、三重労働局第14次労働災害防止計画に基づく機械災害防止対策における令和6年の目標値(指数)114人を4人、3.6%上回った。

2 令和6年度に実施した機械災害発生事業場に対する指導に係る分析

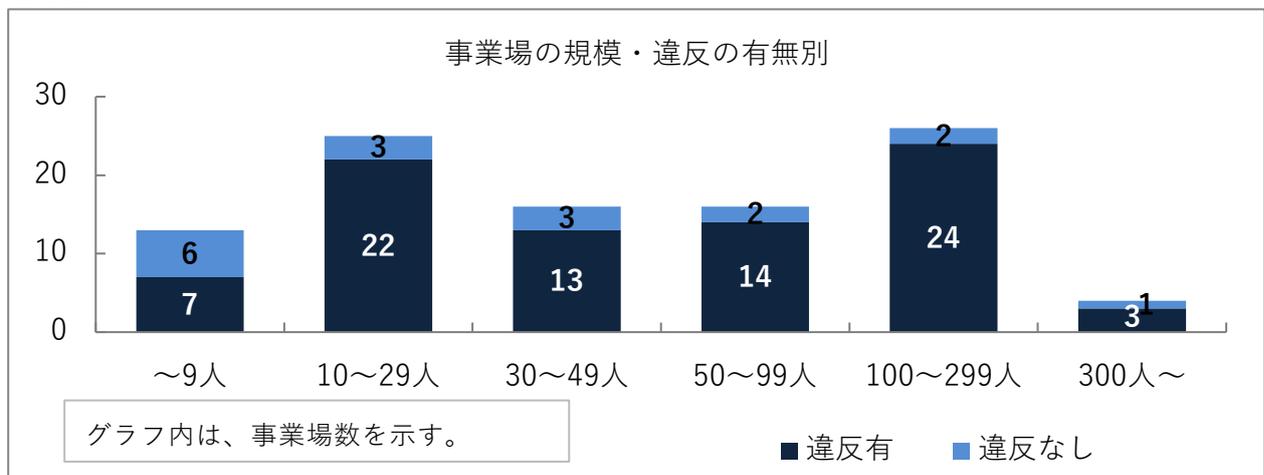
(1) 法令違反条文別

対象100事業場のうち、83事業場において法令違反が認められた。違反条文数100の内、56%が労働安全衛生規則107条(掃除等の場合の運転停止等)違反であった。



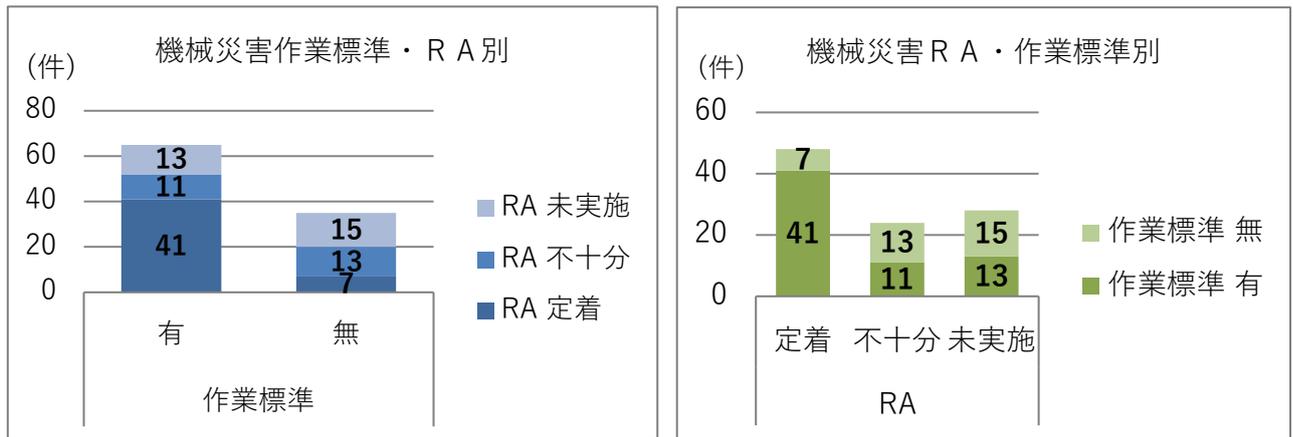
(2) 事業場規模・法令違反の有無別

規模別では100~299人の事業場が最も多く24事業場、24%を占め、次いで、10~29人の事業場が22事業場、22%を占める状況で、事業場の規模に関わらず法令違反が認められた。

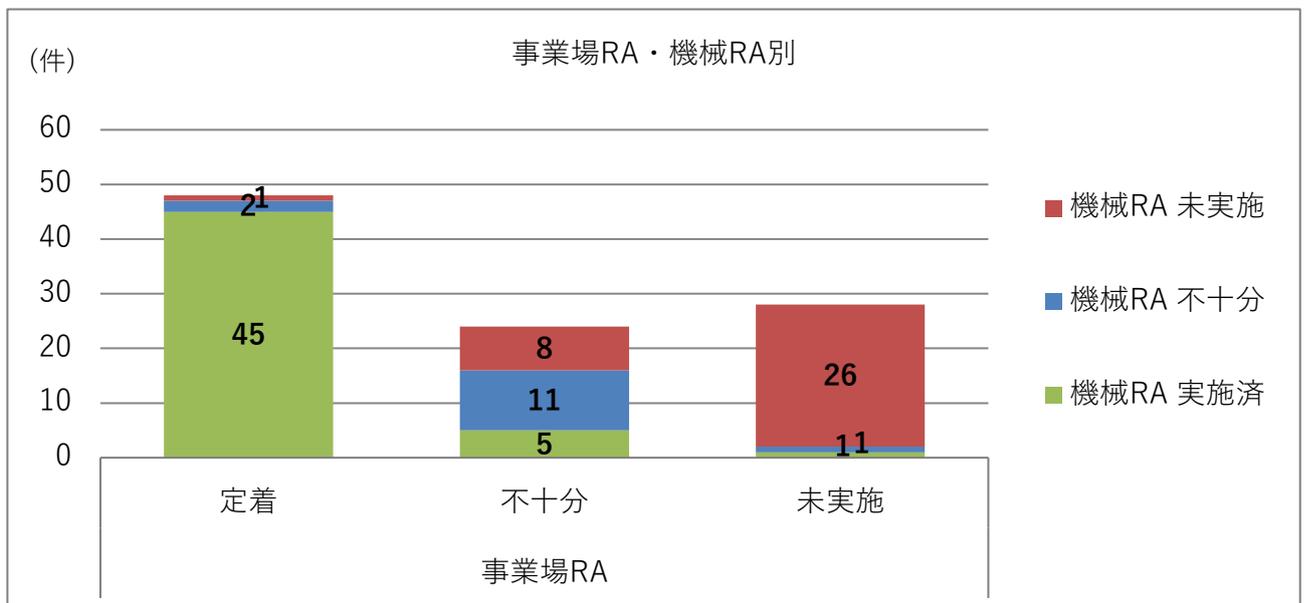


(3) 作業標準の有無、リスクアセスメントの実施状況等別

① 作業標準の未作成(無)が 35 件、35%、リスクアセスメントの未実施及び不十分が 52 件、52%であった。



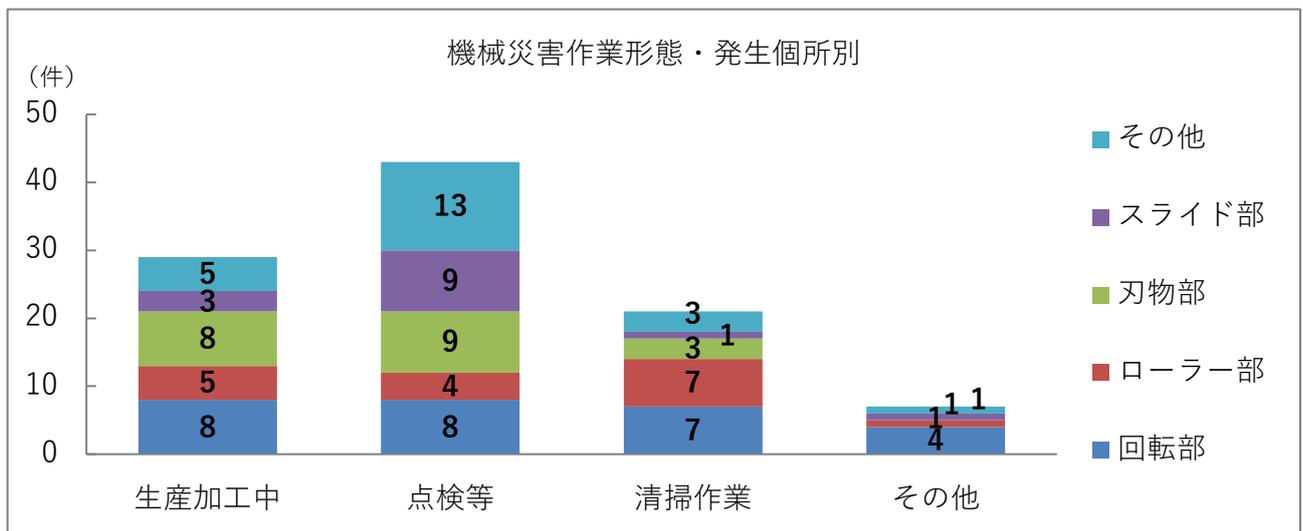
② リスクアセスメントが不十分であった事業場(24 事業場)の内、79%が災害を発生させた機械に係るリスクアセスメントが不十分または未実施であった。



(4) 作業形態、発生個所別

作業形態別では、点検等における災害が 43 件、43%と最も多く発生した。

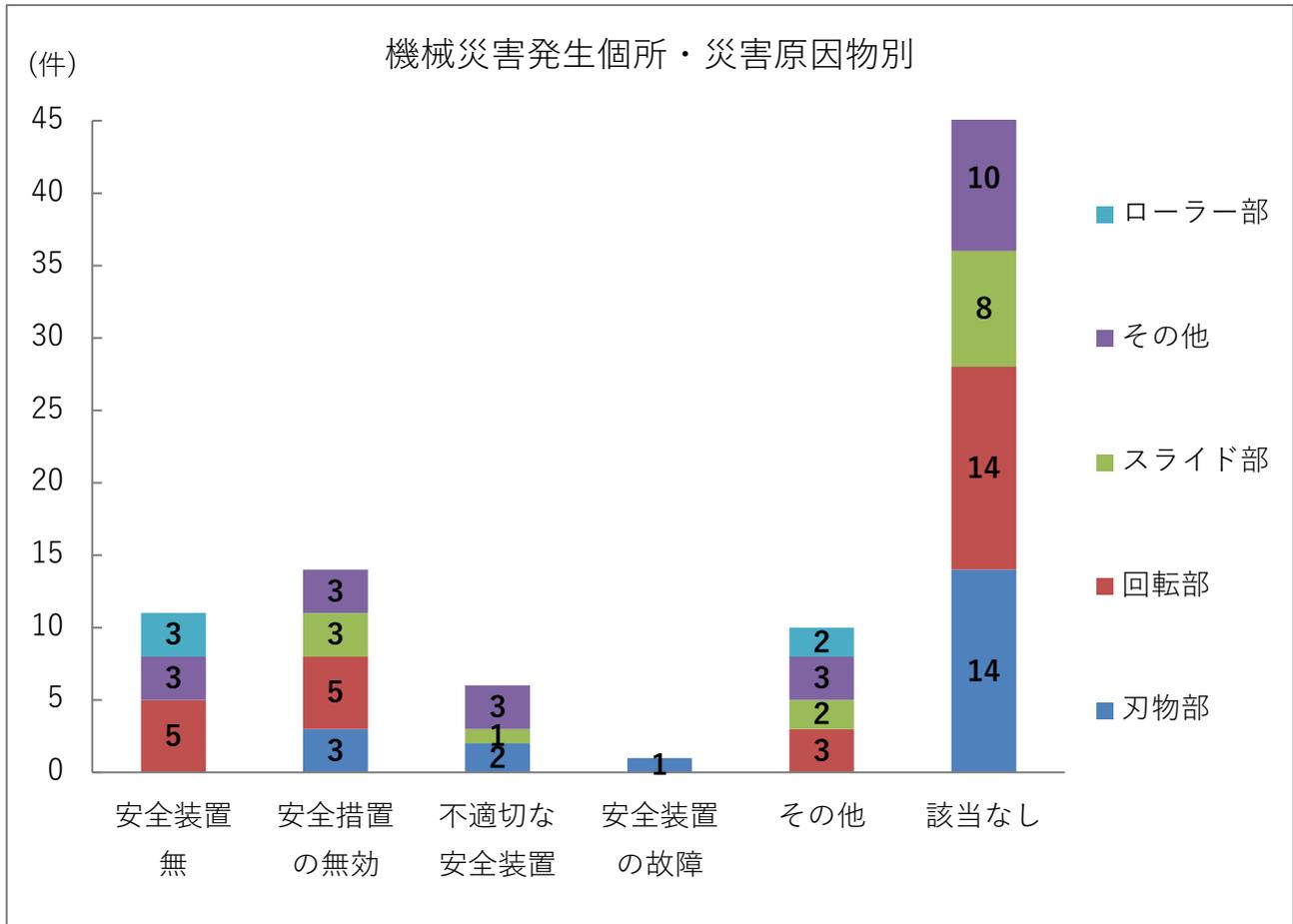
発生個所別では、回転部、刃物部において災害が多く発生した。



(5) 発生個所、災害原因別

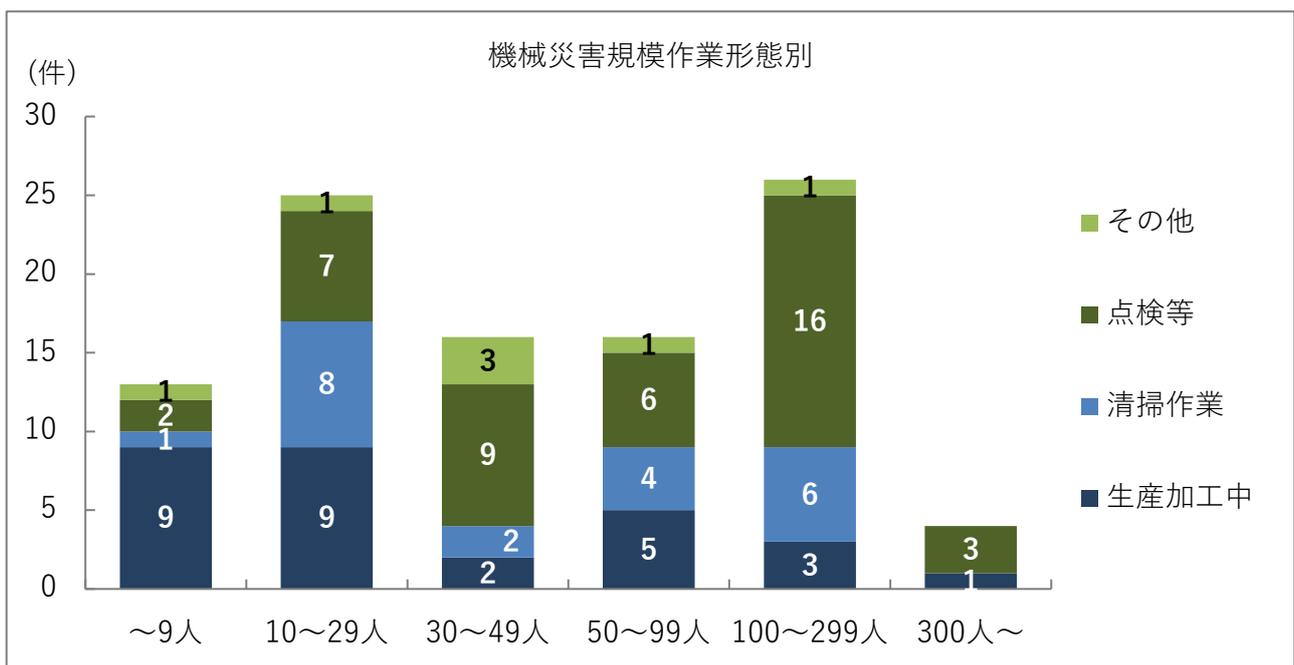
災害原因別(不安全状態)では、安全装置の無効の場合が14%を占め最も多く、安全装置の設置無と不適切な安全装置を含めると全体の3割を占めている。

一方、安全装置を有していても、いずれの個所でも災害が発生した。



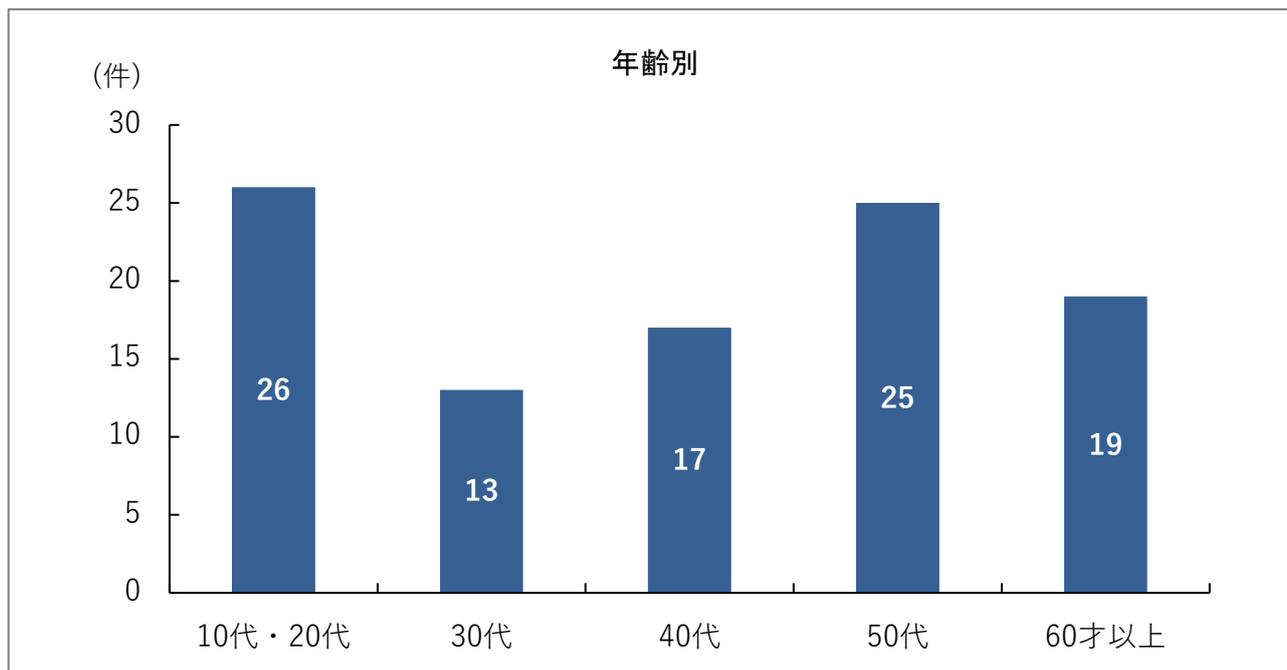
(6) 事業場規模、作業形態別

30人未満の規模では、生産加工中、30人以上の規模では点検等の作業で発生が多かった。



(7) 年齢別

全ての年代で災害が発生し、10代・20代の若年層、50代における発生が目立っている。



(8) 年齢、経験年数別

10代・20代では、経験年数5年未満が多く、50代以上では、経験年数10年以上が比較的多く発生した。

経験年数1～5年が最も多く28件、28%を占め、次いで1年未満が23件、23%を占めている。

